



小野芹奈医師

医療最前線 症状に潜む

県立中央病院から

(218)

突然、胸の辺りに痛みが走る。「いつもとは何かが違う」。そう感じながらも様子をみてしまうことはないだろうか。その痛み、もしかしたら命に関わる病気が原因かもしれない。油断は禁物だ。

一概に胸痛と言っても考えられる要因はさまざま。山梨県立中央病院循環器内科の小野芹奈医師によると、重い荷物を運ぶなどして起きる筋肉痛、ストレス

などが原因で引き起こされる神経痛でも胸に痛みを感じることもある。

緊急性が高く命の危険が迫っている「兆候」の可能性もある。そうした視点で医師が意識する主な病気として、小野医師は①急性冠

急性冠症候群（不安定狭心症・急性心筋梗塞）は心臓に栄養を送る血管（冠動脈）が詰まって起きる。心臓のポンプ機能が低下し、胸の中央が押さえつけられているような痛みがあると

いう。人によっては冷や汗

き、その壁の中に血液が流れ込む急性大動脈解離は背中側にも痛みがあるのが特徴。解離する血管が拡大していくと、痛みを感じる場所が移動していくこともある。

急性肺血栓塞栓症は脚の

胸の痛み、油断は禁物

1分1秒争う可能性も

症候群②急性大動脈解離③急性肺血栓塞栓症④緊張性気胸—の4種類を挙げる。

や吐き気、めまいを感じることもある。

血管の壁に裂け目がで

血流が悪くなることでできた血の塊（血栓）が静脈を流れて肺の血管をふさぐ病気が長時間にわたり体を動かさず同じ姿勢でいることが血流悪化の要因となる。「エコーノミークラス症候群」とも言われ、新型コロナウイルス感染症拡大による外出自粛、テレワーク普及により、日常の発症リスクが高まっているとの指摘もある。肺から空気が漏れる緊張性気胸」も含め、痛みに

息切れを伴うことが多い。いずれも状況に応じて手術やカテーテル治療、薬による治療となる。急性冠症候群の一つである急性心筋梗塞では、血流が完全に止まって20分後に心筋細胞の壊死が始まり、6時間経過すると細胞の再生は難しくなる。このため、同院を始めとする医療機関は診察から90分以内に血流を再開させる取り組みを進めている。

胸の痛み 緊急性が高い病気と特徴

急性冠症候群 (不安定狭心症・急性心筋梗塞)

胸の中央が押さえつけられる、または締めつけられるような痛み。左腕やあごが痛くなることもある。冷や汗や吐き気、めまいを感じることもある

急性大動脈解離

背中にも痛み。痛む場所が移動することがある

急性肺血栓塞栓症、緊張性気胸

息苦しさを伴う。急性肺血栓塞栓症は足に痛みやむくみを伴うことがある

緊張性気胸」も含め、痛みに

体が生じた症状から考えられる病気や治療について、県立中央病院の医師に聞く。
Ⅱ第2、4木曜日に掲載